

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02553

研究課題名（和文）ヤングアメリカ運動とニューヨーク文学の展開

研究課題名（英文）Influence of Young American Movement on the Development of New York Literature

研究代表者

若林 麻希子（Wakabayashi, Makiko）

青山学院大学・文学部・教授

研究者番号：50323738

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、アメリカにおける国民文学創生に内在する地政学的様相を明らかにした。その際、オランダ領北アメリカ植民地ニューネザール由来の「寛容主義」を継承するニューヨーク文学が、ヤング・アメリカ運動を通して、ニューイングランド作家に影響を与えながら、アメリカ文学をニューヨークとニューイングランドの文化的融合として成就する瞬間を、キャサリン・マリア・セジウィックそしてナサニエル・ホーソーンに捉えることが出来た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、国民文学創生における既存のニューイングランド中心主義に対して、ニューヨーク文学の貢献を明確にしたことに主な学術的意義がある。また、近年、アメリカ文学を新たな時空間で捉える研究が積極的に進められているが、本研究成果は、アメリカ文学を地方主義の観点から捉え直す可能性を提示することで、これらの研究に一定の貢献を果たすことが出来たと考えている。さらに本研究成果は、広く、アメリカにおけるWASP中心主義的伝統を流動化し、21世紀的な多元主義的理解を開く契機としての社会的意義をもつと考える。

研究成果の概要（英文）：This study has elucidated the geopolitical aspects inherent in the formation of the national literature in the U.S. To do so, this study observed how New York literature, which is characterized by the idea of tolerance as an ideological legacy of Dutch New York, influenced New England writers via Young America Movement and grasped a striking moment in which "American" literature came into being as a cultural hybrid of New York and New England in works by Catharine Maria Sedgwick and Nathaniel Hawthorne.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：ニューヨーク文学 ヤング・アメリカ運動 地方主義 キャサリン・マリア・セジウィック ナサニエル・ホーソーン ジェイムズ・フェニモア・クーパー アメリカ文学史

1. 研究開始当初の背景

本研究は、平成 26 年度から平成 28 年度までに基盤 (C) の交付を受けて行った「初期アメリカ文学における“Dutch New York”研究」(課題番号 26370325) で得られた成果を踏まえて構想された。この課題においては、初期アメリカ文学のなかにオランダ領北アメリカ植民地ニューネザールランドに由来する「寛容主義」の伝統を辿ることによって、ニューヨーク文学を、多元民族主義から民主主義へのパラダイム・シフトとしてアメリカの歴史的展開を記述する国家言説として体系化する可能性を突き止めた。この課題は、その一方で、ニューヨーク文学におけるヤング・アメリカ運動の位置づけに関する問題を突きつけた。ヤング・アメリカ運動は、ジャクソニアン・デモクラシーを擁護する民主主義運動としてニューヨークを拠点に興り、アメリカ文学の成立に大きな影響を与えたことが知られている。しかし、アメリカ文学史上、ヤング・アメリカ運動との関連が指摘されているナサニエル・ホーソーン、エドガー・アラン・ポー、そしてハーマン・メルヴィルを考えてみるならば、そのニューヨークという地政学的特徴が曖昧になっていることに気づく。そこでヤング・アメリカ文学をニューヨーク文学の系譜に照らし合わせて再考する必要がある。

2. 研究の目的

本研究は、ヤング・アメリカ運動をニューヨーク文学の系譜において捉え直すことによって、アメリカにおける国民文学創生の地政学的様相を明らかにすることを目的とした。ニューヨークは、主に、南北戦争後のアメリカ文学の発展に貢献した地域であることが知られている。しかしその一方で、ニューヨークが、初期アメリカ文学の分野において、「アメリカらしさ」を模索するための想像力の源泉を提供する地域として、国民文学の創生に重要な貢献を果たしていたことの理解は未だ確実なものとはなっていない。そこで本研究では、1830 年代以降にニューヨークを拠点に展開した民主主義運動であるヤング・アメリカ運動を通して、ニューヨーク文学がアメリカン・ルネッサンス文学に接続する瞬間を明らかにすることによって、国民文学開花の現象をニューイングランド中心に捉える従来の文学史観を相対化するニューヨーク文学の流れを示すことを目指した。

3. 研究の方法

ヤング・アメリカ運動とアメリカ国民文学創生の関係を考察するに当たり、当初は、エバート・A・ダイキンクに関する現地調査が欠かせないと考えていた。*Cyclopaedia of American Literature* 編纂の狙いや、ダイキンクの交友関係を精査することによって、国民文学創生に向けたニューヨークからの働きかけを検証する予定であったが、現地調査に至る事前調査・研究に時間を要したことでコロナ感染症の流行が重なり、結果的に、本課題の研究期間内に現地調査を実施することが叶わなかった。そこで本研究では、Edward L. Widmer や Yonatan Eyal によるヤング・アメリカ運動に関する歴史研究分野の優れた知見を利用しながら、ヤング・アメリカ運動との関連が指摘されている作家らの作品に現れる地政学的様相の分析を行った。文学作品の分析に当たっては、文学を制度や社会といったコンテクストとの影響関係で捉えるカルチュラルスタディーズの方法を採用した。

4. 研究成果

本研究では、ヤング・アメリカ運動をニューヨーク文学の系譜の中で再評価することによって、アメリカにおける国民文学創生に関する従来の文学史的評価を相対化するニューヨーク文学の流れを示すことに一定の成果を挙げることが出来たと考えている。その内容を(1)建国時代と(2)アメリカン・ルネッサンス期の歴史区分に即して以下に説明する。

(1) 建国時代

建国時代のニューヨーク文学の諸相については、先に言及した前回科研費課題「初期アメリカ文学における“Dutch New York”研究」と接続しつつ、アメリカの歴史的展開を多元民族主義から民主主義へのパラダイム・シフトとして記述する国家言説としてのニューヨーク文学のジャンルの特徴が、ヤング・アメリカ運動との影響関係によって醸成された可能性を検証した。その結果、ワシントン・アーヴィングやジェームズ・フェニモア・クーパーによるニューヨーク文学には、ヤング・アメリカ運動に関わる積極的な影響を見出すことは出来なかったが、キャサリン・マリア・セジウィックのキャリアにとりわけ興味深い様相を観察することが出来た。

セジウィックは、*A New England Tale* (1822) や *Hope Leslie* (1827) の初期代表作の中でニューイングランドを題材にしたため、ニューイングランド地方主義文学の担い手としての評価が確立していた。しかし、1830 年代の著作群、すなわち、*Clarence* (1830) \ *The Linwoods* (1835)、そして“Domestic Trilogy”を構成する *Home* (1835) \ *The Poor Rich Man and the Rich Poor Man* (1836) そして *Live and Let Live* (1837) は、いずれも、ニューヨークを舞台としており、セジウィックが、この時期に、従来のニューイングランドではなく、ニューヨークを作品の題材として積極的に採用していることに思い当たった。セジウィックをニューヨークへと方向付け

た要因は決して単純ではないものの、1827年以降にニューヨークへと生活の拠点を移した物理的事実によって、セジウィックが、*Democratic Review* (1837)の創刊に辿り着くヤング・アメリカ運動に触れる実質的な機会を得ていたことが分かった。ヤング・アメリカ運動の中心的指導者ジョン・L・オサリバンとは、文筆活動を通して、*Democratic Review*創刊以前の1837年から交流が開始され、セジウィックの*Democratic Review*へのかかわりは1841年にピークに達した。また、オサリバンとの関係も、文学を超えて、ニューヨークの刑務所改革などの社会改革運動に及んでいた。しかし、より示唆的なのは、セジウィック文学の地政学的想像力に映し出されるヤング・アメリカ運動の影響である。

建国時代は、アメリカ文学史上、「アメリカらしさ」が探求された時代とされる。その代表的な担い手となったのがアーヴィングやクーパー、そしてセジウィックであるが、前者ふたりの作家が、「アメリカらしさ」を、ニューヨークを舞台に描き出したことに対して、キャサリン・マリア・セジウィックは、ニューヨークとニューイングランドの地域の特徴が融合した結果として、アメリカの民主主義的理想を描く獨創性を発揮しており、ここにヤング・アメリカ運動との繋がりの影響を見出すことができた。この知見については、特に、2017年9月開催のAmerican Studies Association of Korea (ASAK)における招待講演“Geopolitics of Catharine Maria Sedgwick’s America in *The Linwoods*”として発表した。

(2) アメリカン・ルネサンス期

アメリカン・ルネサンス期は、国民文学創生の時代であると同時に、ニューヨークとニューイングランドが、文化的覇権を巡って対抗関係にあった時代でもある。キャサリン・マリア・セジウィックのキャリアは、このような国民文学創生の地政学的様相を反映しつつ、ヤング・アメリカ運動がニューヨークとニューイングランドの地方主義的対立に一定の影響力を及ぼしていたことを示唆した。そこで本研究の分析対象を、ニューイングランド作家と見做されながらも、民主党員としてヤング・アメリカ運動に身を投じたナサニエル・ホーソーンに広げ、アメリカン・ルネサンスを代表する*The Scarlet Letter* (1850)に至るキャリアを検証することにした。

ホーソーンが、そのキャリアの初期において、ピューリタン時代のニューイングランドを題材とした歴史小説を書く着想を得たきっかけとして、ワシントン・アーヴィングの*The Sketch-Book* (1819-1820) とりわけ、“Rip Van Winkle”や“The Legend of Sleepy Hollow”といったDutch New Yorkを題材にした物語の存在があったというローレンス・ビュエルの指摘を足掛かりにして、*Twice-Told Tales* (1837)の分析から検証を開始した。*Twice-Told Tales*におけるアーヴィングの影響として、民衆の視点に着眼し、後続するホーソーン文学において、その手法がどのように展開してゆくのか、またその展開の背景に存在する歴史的要因について調査・研究を進めた。*Twice-Told Tales*後、ホーソーンは、ヤング・アメリカ運動のオサリバンとの関係を深め、彼の*Democratic Review*への寄稿も1845年までに24篇の短編とエッセイを数えるまでになる。歴史小説の執筆によって生まれたホーソーンの民衆への関心は、*Democratic Review*が志向する民主主義価値観と写実主義に受け皿を見出すことになる。その一方で、ホーソーンはコンコードに移り住み、いわゆる、「牧師館時代」を迎えることになる。ヤング・アメリカ運動に懐疑的なニューイングランド知識人の本拠地に身を置き、ホーソーンは超絶主義思想の洗礼を受ける。「牧師館時代」のホーソーンは、ヤング・アメリカ運動のニューヨークと超絶主義のニューイングランドを文字通り橋渡しする役割も担っていたが、作家としての成功を望むホーソーンにとっては、どちらに身を寄せることが作家としての成功に結びつくのか、その判断さえ下すことが出来ない、宙ぶり状態にあったことが浮き彫りになった。このような事情を考慮しつつ、*The Scarlet Letter*を分析することによって、本研究では、ホーソーンのロマンスのテキスト性、即ち、現実と想像の混沌を特徴とする中間地帯(“a neutral territory”)とされるテキスト性が、ニューヨークとニューイングランドの相反する価値観を折衷する役割、具体的には、17世紀ニューイングランドに民主主義社会の萌芽を見出す理想主義を支える役割を担っていることを突き止めた。この成果については、「ナサニエル・ホーソーンとロマンスの地政学 『緋文字』を中心に」として論文にまとめ、「青山学院大学文学部紀要」に発表した。

以上のように、本研究を通して、それまで地方主義的様相を呈していたアメリカ文学が国民文学として成立する過程において、ヤング・アメリカ運動が極めて積極的な役割を担っていたことが明らかになった。ニューヨーク文学の系譜におけるヤング・アメリカ運動とは、つまり、ニューヨーク由来の民主主義が国民文学を支えるパラダイムとして確立することに貢献した文化的仕事と捉えることが出来るのだ。

本研究から得られた成果の国内外におけるインパクトとしては、何よりも、これまでニューイングランドを主流に構築されたきた既存のアメリカ文学史観に対して、ニューヨーク文学の系譜を解き明かした点にある。近年、南北戦争後/南北戦争以前という19世紀アメリカ文学の伝統的な時代区分を再編することによって、新たな19世紀アメリカ文学の展開を示そうとする研究やトランスナショナル/グローバルな視点からアメリカ文学を再編成する研究によって、アメリカ文学の時空間は流動化されつつある。本研究は、アメリカにおける国民文学の成立の過程を、ニューヨークを起源に捉え直すことによって、既存のアメリカ文学史観を流動化する先行研究に対して、19世紀アメリカ文学の地方主義的展開という新たなテーマを提示することで一定の貢献を果たしたと考えている。

最後に今後の展望であるが、本研究から獲得した19世紀アメリカ文学の地方主義展開というテーマを追求するにあたり、関心を共有する研究者の協力を得て、基盤研究(B)「逆走文学の系

譜 「アメリカン・ルネサンスの地方主義的意義の考察」(課題番号 21H00510)を構想し、2017年度に採択された。既存の文学史観では語ることが出来ないアメリカ文学の新たな系譜を発掘する研究・調査が進行中であり、『マーク・トウェイン 研究と批評』に発表した論文「クーパーを読むトウェイン トム・ソーヤー物語の叙事文学としての可能性」は、アメリカ文学における叙事文学の系譜に理解を開くものとなった。さらに、『改革が作ったアメリカ』に寄稿した論文「『鉄道以前の時代』という歴史意識 ストウ文学にみるアメリカ地方主義文学の伝統」においても、南北戦争後に発達したとされるリアリズム文学とは異なるリアリズム文学の系譜を提示することが出来た。こうした成果を積み上げてゆくことによって、21世紀にふさわしい新しいアメリカ文学のビジョンを引き続き開拓してゆきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 若林 麻希子	4. 巻 63
2. 論文標題 ナサニエル・ホーソンとロマンスの地政学 『緋文字』を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 青山学院大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 77～89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34321/22146	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 若林 麻希子	4. 巻 21号
2. 論文標題 クーバーを読むトウェイン トム・ソーヤー物語の叙事文学としての可能性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 マーク・トウェイン 研究と批評	6. 最初と最後の頁 17-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 若林麻希子	4. 巻 21
2. 論文標題 心象風景としてのルイジアナ ケイト・ショパンの地方主義再考	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 フォークナー（日本ウィリアム・フォークナー協会）	6. 最初と最後の頁 52-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 若林麻希子	4. 巻 25
2. 論文標題 ハリエット・ピーチャー・ストウの南部 フロリダ滞在記『バルメットヤシの葉』を読む	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 フォークナー（日本ウィリアム・フォークナー協会）	6. 最初と最後の頁 77-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 若林 麻希子
2. 発表標題 トウェインとクーパーを繋ぐもの トム・ソーヤー物語の叙事文学としての可能性
3. 学会等名 第25回日本マーク・トウェイン協会全国大会シンポジウム「読書人トウェイン」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 若林麻希子
2. 発表標題 心象としてのルイジアナ ケイト・ショパンの地方主義再考
3. 学会等名 日本ウィリアム・フォークナー協会第21回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 若林麻希子
2. 発表標題 ジェームズ・フェニモア・クーパーのアメリカの語り方 Littlepage三部作を中心に
3. 学会等名 日本アメリカ文学会東京支部3月例会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 若林麻希子
2. 発表標題 Geopolitics of Catharine Maria Sedgwick 's America in The Linwoods
3. 学会等名 American Studies Association of Korea (ASAK) 52nd International Conference（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 若林麻希子
2. 発表標題 "Pre-railroad times"という歴史意識 Stowe文学にみる長い19世紀
3. 学会等名 日本アメリカ文学会第61回全国大会シンポジア（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 巽 孝之、宇沢 美子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 244
3. 書名 よくわかるアメリカ文化史 （若林が第三部第11章「流行・食・身体美」（92 - 99頁）を執筆）	

1. 著者名 日比野 啓、下河辺 美知子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 323
3. 書名 アメリカン・レイバー（若林が「一八三〇年代アメリカと家事労働 キャサリン・マリア・セジウィックを中心に」（23 - 41頁）を執筆）	

1. 著者名 佐久間 みかよ、橋川 健竜、増井 志津代、小倉 いずみ	4. 発行年 2023年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 改革が作ったアメリカ（若林が「『鉄道以前の時代』という歴史意識 ストウ文学にみるアメリカ地方主義文学の伝統」（269-285頁）を執筆）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------